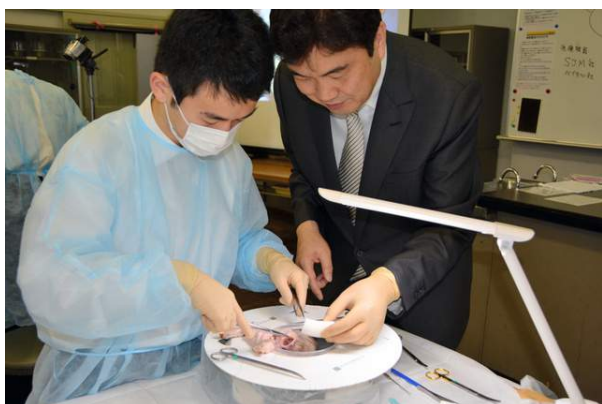




2015年10月29日



南淵明宏・昭和大教授(右)の指導を受けながら人工血管を心臓に縫合する生徒＝東村山市の明法中

東村山市の私立明法中で28日、ブタの心臓を使った手術体験授業があった。生徒たちは心臓外科医の指導を受け、真剣にハサミや縫合針を動かした。

ブタの心臓は人間の心臓と大きさや重さ、構造が近く、研修医や医学生の訓練などに使われる。この日、明法中グローバル・エンデバーズ(GE)2年生の生徒12人は、同校の卒業生で心臓外科医の南淵(なぶち)明宏・昭和大教授(57)の指導を受けながら、準備されたブタの心臓から大動脈を切り取り、人工血管や人工弁を縫い付けた。

菊池慶君(13)は「めっちゃ疲れる。首が痛い」。歴史好きで医学に興味はなかったが、「楽しかった」と話した。プロ野球選手を目指す中田晃貴君(14)は「心臓はプニプニ柔らかい部分と硬い部分の差が大きい」と感心していた。



生徒たちはブタの心臓で手術体験に取り組んだ＝東村山市の明法中

朝日新聞デジタル購読者の方なら手続き不要

「朝日新聞デジタル」の有料会員の方は、ご利用中のログインID・パスワードで
アプリのコンテンツをお楽しみいただけます。

[朝日新聞デジタルのお申し込みはこちら](#)